

てん菜協会 だより

2016.1.25

第 122 号



発行／一般社団法人 北海道てん菜協会／〒060-0004 札幌市中央区北4条西1丁目 ☎011-221-2542 FAX011-221-1815
URL <http://www.h-tensai.sakura.ne.jp>



札幌市円山動物園

てんさい

平成27年てん菜の生育状況については、早ばつや大雨等による被害が一部地域に出たものの、てん菜にとっては恵まれた気候で推移し、総じて良好な生育となりました。また、前年産に大きな被害をもたらした西部萎黄病については、冬期間のハウスクリーニング等を徹底した結果、大きな被害の発生もなく、高糖分・高収量の年となりました。これらは生産者の努力の賜物であり、改めて感謝申し上げます。

第2次安倍内閣は、大胆な金融政策、積極的な財政政策、成長戦略を「3本の矢」として掲げてきました。日本銀行による大規模な金融緩和策で円安・株高が進み、企業の業績は大きく改善しましたが、景気は停滞感が強く、個人消費も伸び悩んでいるのが実態です。円安が進んだことで、輸入品の価格が上昇しており、このことが更に家計を圧迫しております。食料自給率が低い日本は、様々な外的要因により価格変動を伴う輸入品に頼っている訳ですが、この実態が国の姿として本心に正しいのでしょうか。世界規模で見た場合、食料不足は明確であり、今後も必要な数量を安定的に輸入できる保証などありません。

自国の食料を自国で生産することが基本であり、旬の食材を使って美味しい料理を囲み、家族が団らんできるよう、これからも北海道農業は日本国民のために、安心・安全な農産物を安定供給する必要があります。そのためにも、関係機関が連携し、持続可能な北海道農業の実現に向けた取り組みを図ってまいります。

(M・S)



年頭のご挨拶

一般社団法人 北海道てん菜協会
会長 内田 和幸

平成28年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。皆様には平素より、当協会の運営に深いご理解と協力をいただき心よりお礼申し上げます。

昨年の北海道農業は、生産者をはじめ関係の皆様のご努力はもとより、雪解けも早く、その後もほぼ天候に恵まれ、農作業・生育が順調に推移し、総じて豊かな出来秋を迎えることが出来ました。

てん菜につきましても、近年になく順調に生育が進み、前年発生が拡大した西部萎黄病についても生産者をはじめ関係の方々の懸命な取組により大きく抑制され、また、9月以降は秋らしい天候になったことから、収穫直前まで健全な状態を維持することが出来ました。この結果、ha収量は67トン、根中糖分も、17・4%と昨年をも上回る作柄を確保することが出来たものと思います。

また、作付面積は近年減少が続く憂慮されていましたが、関係者の皆様のご尽力により、前年より1、448ha多い58、682haと11年ぶりに増加しました。生産者の皆様におかれては、輪作上欠くことの出来ない作物であり、地域にとっても重要な作物であるてん菜の安定的な作付が確保できますよう、

引き続きご理解をお願い申しあげる次第であります。

農業関係者が強く懸念していたTPP交渉については、情報が開示されない中、10月5日に大筋合意され、その内容は、関税の段階的な引き下げなど本道農業の将来に大きな不安を与えるものとなっております。政府はTPP関連政策大綱を発表したものの、農業の担い手が意欲と希望を失わず力強い北海道農業を次世代へ確実に引継ぐために必要な対策が実行されるよう引き続き求めていかなければならないと考えております。てん菜協会としても関係機関・団体と連携して取り組んで参ります。

本道農業・てん菜を取り巻く情勢は、TPPの大筋合意による不安や農家戸数の減少・高齢化、生産資材価格の高騰など難しい局面が続いています。てん菜協会としても、役員一丸となって諸課題の解決に取り組んで参りますので一層のご理解・ご支援をお願い申し上げます。

本年が豊稔の秋となりますよう、また、皆様のご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。

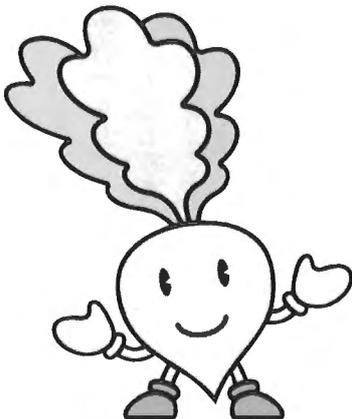
謹賀新年

本年もよろしく
お願いいたします。

一般社団法人 北海道てん菜協会

会長 内田 和幸

ほか役職員一同



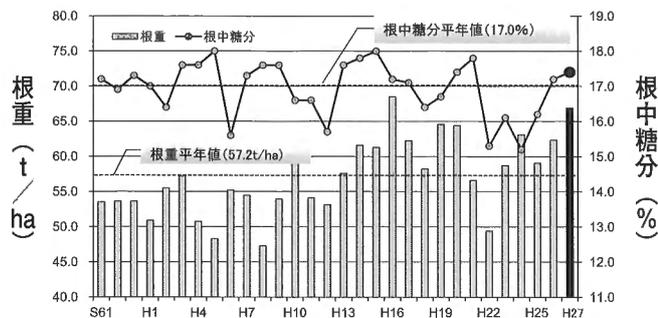


図1.根重および根中糖分の推移(全道)

注) 平均値は昭和61年～平成27年の平均

表1.てん菜の生育経過

振興局名	5月15日	6月1日	7月1日	8月1日	9月1日	10月1日	10月15日	根重年比
道央	石狩 早5	早5	早5	早4	早4	早2	101%	
道南地域	後志 早3	早3	早5	早3	±0	±0	99%	
	胆振 早11	早0	早1	早2	早3	早3	100%	
道北地域	上川 早7	早6	早2	早2	早3	早3	103%	
道東地域	オホーツカ 早10	早5	早5	早6	早6	早6	104%	
	十勝 早4	早5	早5	早5	早6	早6	106%	
全道	早7	早5	早4	早5	早6	早5	—	

注1) 北海道農政発表の「農作物の生育状況」より作成。
注2) 遅/早・数字は移植作業および生育の平均値からの遅早日数を示す。

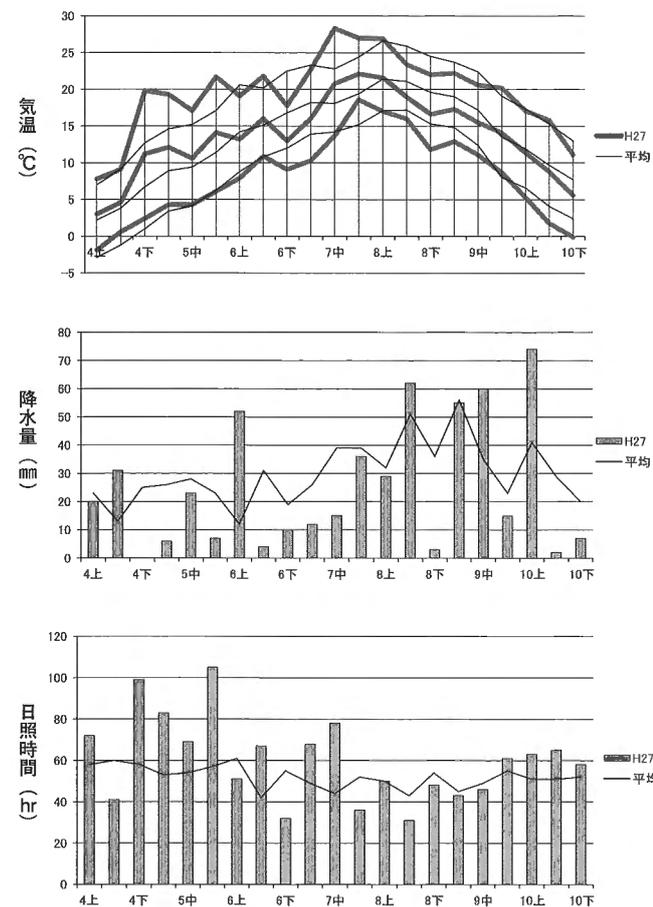


図2.平成27年の気象経過(全道)

注1) 気象値は各旧糖区を代表するアメダスデータを作付け面積に基づき加重平均して算出。
注2) 平均値は平成17～26年の10年平均。

平成27年産 てん菜の生産実績について



道総研北見農業試験場 研究部地域技術グループ

研究主査 池谷 聡

平成27年産のてん菜の受け入れは12月28日をもって終了いたしました。全道平均の根重は66・89 t/haで、平年値対比117%とかなり重く、根中糖分は17・4%で、平年より0・4ポイント高い結果となりました。

した(図1)。根重は、多収であった前年を上回り、糖分取引制度が始まった昭和61年以降で二番目に重く、平成16年に次ぐ値でした。また根中糖分は、平成22年から25年までは平年値よりかなり低い状況が続い

ていきましたが、前年に続いて二か年連続で平年を上回りました。以上のように、平成27年のてん菜は全道的に豊作となりました。27年の気象(図2)ならびに生育経過(表1)を振り返ってみますと、全道的に春先の気温が高く好天が続いたため、移植作業は例年になく順調に進みました。表1の5月15日の移植状況では、全道平均で平年より7日早く、同様に順調であった前年より5日早く進んでいます。また移植後は、前年十勝地域で発生した強風や降霜等の被害もなく、順調でした。その後は、6月下旬に一時全道的

に低温になりましたが、その影響は大きくなく、生育は順調に進みました。一方十勝地域では、6月中旬から7月中旬まで少雨傾向で、一部で干ばつのため生育がかなり遅れた圃場もありました。8月中旬以降は、9月下旬を除いて気温が平年より低めに経過しました。後に述べますが、27年の根中糖分が平年を上回ったのは、この気温の経過によると考えられます。また十分な降水があり、引き続き日照時間も平年並からやや長めであったため、生育は順調に経過しました。干ばつの影響が出ていた十勝地域で

に低温になりましたが、その影響は大きくなく、生育は順調に進みました。一方十勝地域では、6月中旬から7月中旬まで少雨傾向で、一部で干ばつのため生育がかなり遅れた圃場もありました。8月中旬以降は、9月下旬を除いて気温が平年より低めに経過しました。後に述べますが、27年の根中糖分が平年を上回ったのは、この気温の経過によると考えられます。また十分な降水があり、引き続き日照時間も平年並からやや長めであったため、生育は順調に経過しました。干ばつの影響が出ていた十勝地域で



北糖北見製糖所

も、7月下旬以降十分な降雨があり、8月以降生育遅延は徐々に解消しました。また10月上旬には、オホーツクで台風による豪雨があり、根中糖分に若干の影響を与えましたが、最終的な影響はそれほど大きくないと考えられます。収穫直前の10月1日の生育状況は、平均で平年より5日早くなり、10月15日の根重は、平年並からやや大きめとなりました(表1)。収穫作業も天候に恵まれた地域が多く、順調に進みました。

病害虫の発生については、気温が6月中旬まで高めに推移したため、ヨトウガは平年よりやや早く発生しました。発生量は少なめでしたが、石狩地域ではやや多く発生しました。また、近年多発生していた褐斑病は、例年発生が進む8月の気温が

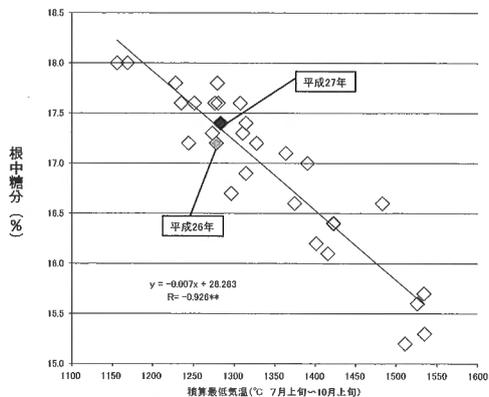


図3.夏から秋の積算最低気温と根中糖分の関係
注)7月上旬から10月中旬までの最低気温の積算値と根中糖分の全道平均値を、昭和61年から平成27年までプロットした。

低かったため、やや少ない発生量でしたが、オホーツク、上川、石狩地域では、他の地域よりやや多く発生しました。根腐病(黒根病を含む)は夏期の気温が7月中下旬以外は平年より低く、降水量が並から少なめに経過したため、少発生に留まりました。前年、特に十勝地域で激発した西部萎黄病は、生産者を始め、関係者の努力により冬場のハウスクリーニングなどの対策が徹底されたことから、発生はかなり減少しました。

気象と収量の関係について、図3に、夏から秋の積算最低気温と根中糖分との関係を示しました。てん菜は、この間の積算最低気温が高いほど、根中糖分が低くなります。この

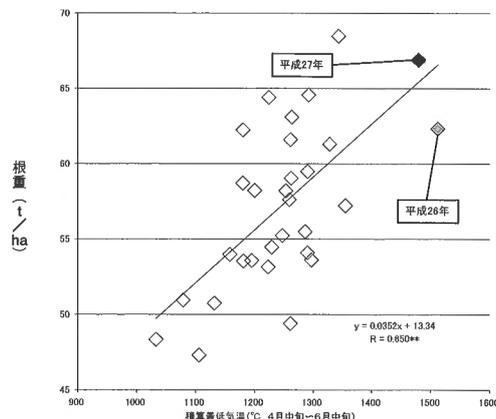


図4.春から初夏の積算最高気温と根重の関係
注)4月中旬から6月下旬までの最高気温の積算値と根重の全道平均値を、昭和61年から平成27年までプロットした。

理由として、夜温が高いと呼吸による糖分の消耗が大きくなるためと考えられています。平成27年は、8月中旬以降の最低気温が低めに経過し、平年より積算最低気温が低くなつたため、根中糖分が平年値よりやや高くなつたと推測されます。また十勝地域は前年まで、他の地域と比べて根中糖分が低い傾向にありましたが、27年は積算最低気温が十分に下がり、西部萎黄病や褐斑病の発生が少なくなつたため、他地域より高糖分となりました。

次に、図4に春から初夏の積算最高気温と根重との関係を示しました。根重は、この間の積算最高気温が高いほど重くなる傾向があります

以上を整理しますと、平成27年産てん菜の根重および根中糖分にプラスの影響を与えた要因は、①6月中旬までの高温傾向と早い移植時期による平年を上回る初期生育の進行、②夏期から秋期の積算最低気温の低温傾向が挙げられます。さらに③西部萎黄病発生量の減少、④褐斑病の少発生等、病害の発生が少なかったことも多収傾向に影響していると考えられます。

27年は、以上のようにてん菜にとっては、問題が非常に少ない年でした。以下は、今後のために注意が必

す。この理由として、初夏までの高温が初期生育を促進させ、その後の根部肥大の促進につながるためと考えられています。27年は、特に6月中旬までの高温傾向の影響で、積算最高気温が平年より高くなつたため、根重が平年値より重くなつたと推測されます。また前年も、春から初夏の積算最高気温が27年と同程度に高かったのですが、27年の根重は前年を上回り、平成16年に次いで二番目の重さになっています。このことについては、移植作業が前年より5日早く進んだことで、初期生育が促進されたことや、病害の発生が少なかったことが要因として挙げられます。



日甜美幌製糖所



ホクレン中斜里製糖工場

要な点を、いくつか挙げていきます。

西部萎黄病のウイルスを媒介するモモアカアブラムシは、冬期はハウス内で保毒源となる作物やその残渣、雑草等に寄生して越冬しています。27年の西部萎黄病の発生減少の主因は、春先からのモモアカアブラムシのてん菜圃場への飛来を抑えるために、アブラムシの発生源である越冬ハウス内の残渣や雑草等の処分を徹底したことによると考えられています。しかし、西部萎黄病の発生がなくなつた訳ではないので、今後とも前年までのような激発を避けるため、①越冬ハウスのクリーニングはもちろんのこと、②発病株のビートトップや収穫残渣をしつかりと土壤に鋤き込み露出させないこと、③育苗ポットへの殺虫剤灌注による媒介

アブラムシの防除等の基本的な対策を継続していくことが重要です。

褐斑病は、27年は少なめの発生でしたが、局所的条件下で発生が多くなることもあり、温暖化の進展のことも考えますと、今後も注意が必要で、す。そのため、怠りなく適切な防除や抵抗性品種の作付け等の対策を行うていく必要があります。

平成26、27年の2か年は、根中糖分に影響を与える秋口の気温は低めでしたが、温暖化の進展によって、この時期の気温が高くなる年が多くなると考えられます。そのため、できるだけ根中糖分が低下しないように、①適正な施肥管理を行うこと、②湿害に備えて十分な透排水対策を行うこと、③高糖分型品種の作付け等の対策が引き続き重要です。

近年、褐斑病・黒根病抵抗性等の耐病性を持ちつつ、従来の主力品種に引けを取らない収量性を持つ品種や、糖量が主力品種に近づいた高糖分型品種も、新たに北海道の優良品種となつています。てん菜を安定し

**平成27年度
原料てん菜測定センター
「立入点検」結果**

平成27年度の「立入点検」は「測定要領」に基づき、第一回目が10月27日～11月5日、第二回目が11月12日～19日の期間において、各測定センター測定装置の点検を実施いたしました。

【点検内容】(操業前点検と同項目)

- ・ ソウマシ
- ・ 薬液循環装置
- ・ デイスペンサー
- ・ 攪拌装置
- ・ ろ過装置
- ・ 糖分測定機

【点検結果】
全道6製糖所(工場)の糖分測定装置を点検した結果、全て良好でありました。

て生産してゆくために、圃場条件に応じてこのような品種の活用も重要です。今後とも農業試験場を始め、関係機関は有益な情報の提供に努めて参りますので、積極的に活用していただければ幸いです。

糖業者	測定センター	系列	第1回		第2回	
			点検日	点検結果	点検日	点検結果
日 甜	芽 室	1	11/5	良	11/12	良
		2	〃	良	〃	良
		3	〃	良	〃	良
ホクレン	中斜里	1	11/2	良	11/13	良
		2	〃	良	〃	良
北 糖	清 水	1	11/5	良	11/17	良
	北 見	1	11/2	良	11/13	良
	道 南	1	10/27	良	11/19	良
	本 別	1	11/4	良	11/12	良

平成27年産てん菜の生産実績(総合振興局・振興局別)

総合振興局 ・振興局名	作付面積 (ha)	単 収 (t/ha)	生産量 (t)	平均糖分 (%)	取引糖分		栽培農家戸数 (戸)	1戸当り面積 (ha)
					最高糖分(%)	最低糖分(%)		
空 知	517.14	62.62	32,382.43	17.5	20.0	15.4	137	3.77
石 狩	1,043.43	65.36	68,196.25	16.9	19.2	13.7	141	7.40
後 志	1,323.37	57.86	76,570.86	17.1	18.8	15.1	272	4.87
胆 振	1,599.89	65.33	104,522.39	17.1	19.5	14.7	298	5.37
日 高	51.91	61.56	3,195.80	17.7	18.5	17.4	6	8.65
渡 島	150.12	52.20	7,836.14	17.2	19.3	13.0	31	4.84
檜 山	260.06	59.87	15,569.20	17.6	19.1	15.9	48	5.42
上 川	3,619.15	64.80	234,530.68	17.3	19.5	14.1	720	5.03
留 萌	265.57	35.26	9,365.19	17.9	20.0	13.7	22	12.07
宗 谷	—	—	—	—	—	—	—	—
オホーツク	23,692.25	68.80	1,629,923.93	17.4	19.5	13.0	2,564	9.24
十 勝	25,732.55	66.73	1,717,095.74	17.6	20.9	14.0	3,086	8.34
釧 路	296.98	63.90	18,976.09	17.5	18.2	16.7	16	18.56
根 室	129.80	55.30	7,177.60	17.7	18.0	16.9	11	11.80
合 計	58,682.22	66.89	3,925,342.30	17.4	20.9	13.0	7,352	7.98
(参考)								
26年産合計	57,233.84	62.32	3,566,714.80	17.2	21.1	11.1	7,472	7.66
25年産合計	58,187.86	59.04	3,435,323.42	16.2	19.4	11.4	7,668	7.59
24年産合計	59,234.64	63.44	3,757,831.36	15.2	18.4	8.0	7,962	7.44
23年産合計	60,418.88	58.71	3,547,376.64	16.1	19.4	11.0	8,214	7.36
22年産合計	62,559.21	49.40	3,090,381.39	15.3	18.7	7.7	8,563	7.31

北海道てん菜協会まとめ

平成27年産 てん菜糖分帯別生産量

総合振興局 ・振興局名	生産量 (t)	平均 糖分 (%)	糖 分 帯 別 生 産 量											
			15.9%以下		16.0~16.4%		16.5~16.9%		17.0~17.4%		17.5~17.9%		18.0%以上	
			(t)	割合(%)	(t)	割合(%)	(t)	割合(%)	(t)	割合(%)	(t)	割合(%)	(t)	割合(%)
空 知	32,382.43	17.5	263.59	0.8	2,399.54	7.4	6,315.33	19.5	8,064.30	24.9	5,974.13	18.4	9,365.54	28.9
石 狩	68,196.25	16.9	6,979.07	10.2	11,502.98	16.9	16,301.28	23.9	18,564.44	27.2	10,930.89	16.0	3,917.59	5.7
後 志	76,570.86	17.1	3,433.22	4.5	9,241.81	12.1	19,597.71	25.6	23,927.25	31.2	14,501.91	18.9	5,868.96	7.7
胆 振	104,522.39	17.1	4,998.43	4.8	15,357.69	14.7	21,320.13	20.4	28,262.96	27.0	20,931.90	20.0	13,651.28	13.1
日 高	3,195.80	17.7	0.00	0.0	0.00	0.0	0.00	0.0	180.61	5.7	2,805.66	87.8	209.53	6.6
渡 島	7,836.14	17.2	1,490.50	19.0	544.76	7.0	391.82	5.0	1,669.62	21.3	1,216.23	15.5	2,523.21	32.2
檜 山	15,569.20	17.6	43.40	0.3	599.90	3.9	1,765.02	11.3	3,152.92	20.3	4,254.52	27.3	5,753.44	37.0
上 川	234,530.68	17.3	9,321.79	4.0	15,517.82	6.6	35,861.39	15.3	68,331.10	29.1	64,356.59	27.4	41,141.99	17.5
留 萌	9,365.19	17.9	266.71	2.8	0.00	0.0	517.58	5.5	1,418.84	15.2	1,783.01	19.0	5,379.05	57.4
宗 谷	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
オホーツク	1,629,923.93	17.4	28,092.60	1.7	62,399.14	3.8	223,710.75	13.7	550,781.56	33.8	571,247.73	35.0	193,692.15	11.9
十 勝	1,717,095.74	17.6	19,014.17	1.1	58,063.02	3.4	182,024.38	10.6	425,945.25	24.8	543,886.21	31.7	488,162.71	28.4
釧 路	18,976.09	17.5	0.00	0.0	0.00	0.0	1,122.71	5.9	6,683.38	35.2	8,350.51	44.0	2,819.49	14.9
根 室	7,177.60	17.7	0.00	0.0	0.00	0.0	298.58	4.2	625.67	8.7	4,812.36	67.0	1,440.99	20.1
合 計	3,925,342.30	17.4	73,903.48	1.9	175,626.66	4.5	509,226.68	13.0	1,137,607.90	29.0	1,255,051.65	32.0	773,925.93	19.7
参考														
26年産合計	3,566,714.80	17.2	360,392.35	10.1	366,752.57	10.3	526,172.00	14.8	709,649.59	19.9	804,222.08	22.5	799,526.21	22.4
25年産合計	3,435,323.42	16.2	1,287,859.11	37.5	733,869.77	21.4	716,206.27	20.8	505,346.01	14.7	171,888.57	5.0	20,153.69	0.6
24年産合計	3,757,831.36	15.2	3,155,070.82	84.0	455,414.24	12.1	120,584.44	3.2	22,700.85	0.6	3,809.75	0.1	251.26	0.0
23年産合計	3,547,376.64	16.1	1,451,217.76	40.9	823,134.71	23.2	674,835.83	19.0	421,332.50	11.9	143,725.18	4.1	33,130.66	0.9
22年産合計	3,090,381.39	15.3	2,292,162.36	74.2	464,752.86	15.0	226,669.02	7.3	80,176.20	2.6	20,235.75	0.7	6,385.20	0.2

北海道てん菜協会まとめ (割合の合計は四捨五入により100%とならない場合がある)

平成27年度てん菜の主要病害虫発生状況

病 害 虫	年 次	発生面積		被害面積		発生程度別面積 (ha)					防除面積 (ha)		概 評	
		(ha)	率 (%)	(ha)	率 (%)	無	少	中	多	甚	実面積	延面積	初発期	発生量
褐 斑 病	H27年	21,927	37.4	2,746	4.7	36,755	19,181	2,600	133	13	58,682	322,764	並	やや少
	H26年	26,734	46.7	5,195	9.1	30,500	21,538	4,726	436	33	57,234	313,101	並	並
	平 年	29,533	46.9	6,940	11.0	33,415	22,592	5,492	1,305	144				
根 腐 病 (黒根病含む)	H27年	4,298	7.3	322	0.5	54,384	3,976	322	0	0	58,355	110,607	—	少
	H26年	5,082	8.9	344	0.6	52,152	4,738	344	0	0	56,783	105,975	—	少
	平 年	9,608	15.3	1,371	2.2	53,340	8,237	1,157	210	5				
そ う 根 病	H27年	494	0.8	0	0.0	58,188	494	0	0	0	0	0	—	少
	H26年	510	0.9	0	0.0	56,723	510	0	0	0	0	0	—	少
	平 年	1,365	2.2	16	0.0	61,583	1,349	16	0	0				
西 部 萎 黄 病	H27年	20,607	35.1	1,383	2.4	38,075	19,224	1,023	323	37	57,546	275,329	—	(並)
	H26年	—	—	—	—	—	—	—	—	—			—	—
	平 年	—	—	—	—	—	—	—	—	—			—	—
ヨ ト ウ ガ (第1回)	H27年	6,616	11.3	0	0.0	52,066	6,616	0	0	0	58,682	89,270	やや早	少
	H26年	13,793	24.1	983	1.7	43,441	12,810	979	4	0	57,234	77,827	やや早	多
	平 年	10,719	17.0	461	0.7	52,229	10,258	438	23	0				
ヨ ト ウ ガ (第2回)	H27年	6,827	11.6	0	0.0	51,855	6,827	0	0	0	58,682	92,073	並	少
	H26年	11,716	20.5	913	1.6	45,518	10,804	913	0	0	57,234	85,549	やや早	やや多
	平 年	11,058	17.6	700	1.1	51,890	10,358	660	40	0				
テ ン サ イ モグリハナバエ	H27年	517	0.9	0	0.0	58,165	517	0	0	0	47,715	55,587	並	少
	H26年	1,046	1.8	0	0.0	56,188	1,046	0	0	0	55,886	59,072	並	少
	平 年	4,470	7.1	40	0.1	58,478	4,430	34	4	2				

北海道病害虫防除所のまとめによる。
 平成26・27年とも北海道病害虫防除所のまとめに基づき、北海道てん菜協会が各面積を調整し、作成。
 (てん菜作付面積 26年:57,234ha、27年:58,682haにて算出)
 平年:平成17～26年の10ヵ年平均。

「高品質てん菜づくり講習会」

開催のお知らせ

平成27年度「高品質てん菜づくり講習会」を、2月4日から全道4ヶ所で開催いたします。

この講習会は、広くてん菜をめぐる事情を理解し、より一層の栽培技術の向上に努め、高品質で安定的なてん菜の生産をはかり北海道畑作農業の発展に寄与することを目的に、例年、生産者の皆様などを対象に開催しているものです。

1. 開催日時・会場

〔道南地区〕

2月4日 (木)

〔洞爺湖万世閣レイクサイドテラス〕

洞爺湖町洞爺湖温泉21番地

〔士別地区〕

2月5日 (金)

〔士別市民文化センター〕

士別市東6条4丁目

〔十勝地区〕

2月8日 (月)

〔清水町中央公民館〕

清水町南3条3丁目1番地

〔オホーツク地区〕

2月9日 (火)

〔北見芸術文化ホール〕

北見市泉町1丁目3番22号
 各会場とも、開始時刻は午後1時からで、終了時刻は午後3時30分を予定しています。

2. 講習内容及び講師 (演題仮称)

- ・てん菜をめぐる事情について (農林水産省)
- ・てん菜諸情勢について (JA北海道中央会)
- ・攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業について (北海道農業研究センター)
- ・西部萎黄病の対策、QOI剤について (道総研農業試験場)

生産者はじめ関係者皆様お誘い合わせの上、多数の参加をお願いいたします。



てん菜イメージキャラクター
ショガビー

協会の普及啓発活動

「北海道うまいもの見つけた!」で
てん菜・てん菜糖の重要性をPR

札幌のショッピングセンター・イトーヨーカドーアリオ札幌店で食のイベントとして「第8回北海道のうまいもの見つけた!」が10月28日(水)から11月1日(日)までの期間開催され、当協会と北海道農政部生

産振興局農産振興課・農畜産業振興機構は、共同で10月31日(土)から11月1日(日)の2日間、同会場において、てん菜・てん菜糖のPR活動を行いました。

このイベントに参加するのは今回

で3回目であり、会場内には「てん菜の模型や糖業3者の砂糖製品」の展示紹介、「てん菜から砂糖ができるまで」の電光パネルの展示、「砂糖は、甘くおいしいだけでなく、私たちに必要なエネルギー源として大切な食品であること」を解説した「おさとうのおはなし」や「純白のお砂糖」、「日本の砂糖を支える仕組み」等のパンフレットを配布しました。

また、約400人の来場者にステックシュガー、ドーナツ・金平糖菓子等を配布し、砂糖のPRをするとともに今後のPR活動の参考とするため、砂糖に対するイメージ等のアンケート調査を実施、2日間で482人からの回答がありました。アンケート調査の結果では、写真の中から砂糖の原料となるてん菜を選ぶ設問では8割強が正解、さらに北海道が砂糖の生産地であることを「知っている」と回答したのが7割強と予想以上に多くの方がてん菜や砂糖について知っていたのには驚きました。

砂糖のイメージで一番多かった回答(例示から選択する方式、複数回答)は「脳や体のエネルギー」であり、以下「料理に必要な調味料」、「脳や体の疲労回復効果」、「北海道農業に欠かせない作物」となり、回答上位1位から4位までの順位は昨年と同様でした。また砂糖に対する誤解やマイナスイメージで多いのは「虫歯の原因」「食べると太る」、が上位を占める結果でした。

今後も引き続き、てん菜や砂糖の重要性について、もっと消費者にアピールしていくために理解促進活動を積極的に推進していきたいと考えております。

